

保護者様

令和4年9月21日
どんぐり保育園

保 健 だ よ り

台風が過ぎてから、かなり涼しくなりました。
今日、ももベビー組のお友達（1名）が発熱でお休みをしていたのですが、病院受診をした結果「RSウイルス感染症」を発症したとの連絡を頂きました。園の方では玩具や室内を消毒しておりますが、咳、鼻水などが続く場合は早めの病院受診をお願いいたします。

RSウイルス感染症とは

RSウイルスによる乳幼児の代表的な呼吸器感染症です。
新生児と乳児では重い呼吸器症状をおこしやすく、細気管支炎や肺炎を起こし、入院治療が必要になることも珍しくありません。風邪のような軽い症状を含めて多くの子どもがかかります。感染力が強く一方では免疫が十分に出来ないため、くり返し感染し、だんだんと抵抗力が出来ます。
そのため回数がふえるほど症状は軽くなり、2歳以上では「鼻かぜ」程度になります。

症 状

感染後、鼻水、咳、発熱、倦怠感などの「喉・鼻」の症状から、強い咳や喘鳴（ゼーゼーと音がする呼吸）などの「気管支・肺」の症状に進行していきます。さらに進行すると気管支の末端（細気管支）に炎症を起こし、細気管支炎や肺炎を起こします。合併症として中耳炎や副鼻腔炎を生じやすく、耳や顔の痛みが見られることもあります。

感染予防

1歳までに半数以上飛沫感染と接触感染によってうつるため、手を洗うことが非常に重要です。RSウイルス感染症の初期症状は、風邪と区別するのが困難な為、様子を見ているうちに重症化して呼吸困難に陥るケースも少なくありません。（熱が下がらない・咳が発作のように出る・ぐったりしている・大量の汗をかいている・食事が少ない）などの症状がある時は早めに病院受診しましょう。

★こまめな手洗い・うがいを心がけましょう